



# みぬま通信 第58号

2014年4月



## 見沼たんぼくらのイベント

新年度見沼たんぼくらぶ総会行事 皆様の参加をお待ちしています！

平成26年度総会 日時：4月19日（土）10時（受付9時30分から）

会場：さいたま市立大宮図書館地階視聴覚ホール（表玄関からではなく、北側の外階段から地階へ）

議事：① 事業報告 ② 収支決算報告 ③ 会計監査報告 ④ 役員改選 ⑤ 事業計画 ⑥ 予算

第57回自然観察ハイキング 日時：4月19日（土）13時（受付12時30分から）

集合地：さいたま市立大宮図書館視聴覚ホール（表玄関からではなく、北側の外階段から地階へ）

■自然観察指導員のガイドで氷川参道—氷川神社—大宮公園を散策します。道程：約5km。

**氷川神社** 見沼（江戸時代中期まであった広大な沼）の畔に建立されました。もとは見沼の水神を祀ったようです。神池は見沼の入江の名残りです。富士山と筑波山を結んだ線と浅間山と冬至の日の出を結んだ線の交差点に位置します。

**大宮公園** 1885年（明治18年）、埼玉県で最初の県営公園が氷川公園と言う名称で誕生しました。都市公園の多くは元からあった植物を一切除去し更地として整備しますが、当地は本多静六博士の提言によって、自生するアカマツや薪炭樹と共に森林土壌をかなり残しています。そのため、自然緑地に近い植生も見られます。1980年（昭和55年）、大宮公園の東方に大宮第二公園、さらに2001年（平成13年）には大宮第三公園が開園しました。大宮公園群は芝川左岸の斜面林群と一体となって広大な緑地帯を形成し、大気の浄化と生物多様性に大きな役割を果たしています。

（小野 達二記）

### 第95回見沼塾紅葉狩&フィルム押葉作り

講師：小野達二(NPO法人自然観察さいたまフレンド代表理事)・若野忠男(同副代表理事)

標記見沼塾は11月30日(土)さいたま市北区の市民の森で開催された。挨拶・紅葉の基礎知識・フィルム押葉の作り方説明の後、市民の森内の紅葉狩に出掛ける。イロハカエデ・ハゼノキなどが鮮やかな色彩を誇っている(事前調査では紅葉(含黄・褐色系等)樹木28種)。この紅葉狩で収拾した葉以外に、参加者持参の紅葉を材料に実習に移る。フィルム押葉は台紙の板目表紙を対象紅葉を好みの状態に置き、その上に粘着フィルムをのせ空気が残らないようにピッタリと接着させる方式で作成。この方法では普通の押葉に比較して即席性・自然な色彩の持続性が優れているので試されては如何でしょう。(若野 忠男記)

### 斜面林の体験学習 雑木林の保全作業

12月15日(日)さいたま市見沼区の大和田緑地公園に於いて斜面林の体験学習を実施した。同公園北東部の多目的広場では挨拶・雑木林の保全作業の説明の後、さいたま市みどり愛護会大和田・大谷支部が準備した用具で作業を開始する。

主な作業は落葉広葉樹を主体とする雑木林内に積った落葉を掻き出す作業とその枯葉を集積所(腐葉土のための竹材柵内など)への運搬である。落葉掻きは雑木林に積った落葉を除去することで冬の陽光を林床に十分に射し込み易くして下草の生長を活性促進させることにある。更に集積した落ち葉を腐葉土として肥料に活用できる。

晴れだが、寒い気温の中で参加者のスムーズな連携により作業は順調に進行した。参加者は18名。皆様お疲れ様でした。(若野 忠男記)

# 見沼たんぼくらのイベント

## 第 96 回見沼塾「見沼たんぼの野鳥」 (1月12日(日) 31種確認)

### 小峯 昇

この冬一番の寒さの中、38人が大宮公園駅前に集まりました。気温は2.6℃です。ポート池の枯木立には、北風に吹かれてガマの穂綿から飛び出した細かい種子がくっつき、一見霧氷のようでした。

今年は冬鳥が少なめなのですが、キンクロハジ



ロ、オナガガモ、ハシビロガモ、バンなどの水鳥が観察できました。

大宮公園の松林では冬になるとビンズイという鳥が見られます。ビンズイは夏に日光霧降高原や霧ヶ峰高原などの標高の高い草原で繁殖しており、冬になると平地に降りてくる鳥です、このような鳥は漂鳥と分類されています。セキレイの仲間なので、長い尾を振る特徴的なゆっくりした



ビンズイ

歩き方で餌を探しています。人が近づくと、「ツィー」という細く高い声を出して、木の上に飛び上がります。

明るいところに出たところを撮ろうと狙っていましたが、なぜか松の幹の影に沿って歩いていて、明るい場所に出てきてくれません。さて、ビ

ンズイによく似た鳥にタヒバリがいます。たんぼや畑、水辺などの開けたところで見られますよ。

小動物園にはシラコバトが飼われています。大きなバードゲージ内で繁殖していて、80羽ほどいるようです。シラコバトがモデルの「コバトン」は有名ですが、「県民の鳥」であるシラコバトを実際に見た人は多くありません。お時間があれば是非お出かけください。なお、ここにはシラコバトの近縁種であるジュズカケバトも飼われています。愛玩用に古くから飼い慣らされていたので、おとなしいハトです。手品で使われる白い鳩はジ



シラコバト

ュズカケバトの変種の「ギンバト」でこれも見られますよ。

第3公園の池では残念ながらカモが見られませ



んでした。ここには、ヨシガモという比較的珍しいカモがよく見られるのですが今日は、姿を隠していました。

お配りしたカモ図鑑と24種の野鳥の写真を元に説明をしながら、冬の日を楽しんでもらいました。観察された鳥は、声を聞いただけのものを含め31種でした。

# 見沼たんぼの動植物

サクラ（櫻・桜）考

小野 達二

さくら花散りぬる風のなごりには  
水なき空に浪ぞ立ちける

紀貫之

願はくは花の下にて春死なむ

そのきさらぎの望月の頃

西行

平安時代の昔から日本人はサクラをこよなく愛してきました。サクラは、公式には国花でないが、日本人は国の花として親しんでいます。

因みに、百円硬貨の表のデザインはサクラです。さいたま市の花木はサクラです。

サクラはバラ科サクラ亜属の落葉広葉樹の総称です。日本国内に自生する野生基本種は次の10種です。

ヤマザクラ、オオヤマザクラ、カスミザクラ、マメザクラ、タカネザクラ、ミヤマザクラ、チョウジザクラ、エドヒガン、オオシマザクラ、カンヒザクラ。

この自然交配種が20種ほどになり、野生種を親として改良された園芸品種が数百もあります。

八王子市にある多摩森林科学園のサクラ保存林には250種が植栽されています。

見沼たんぼ地域で見られる主なサクラを開花順に紹介しましょう。3月～5月の開花—カンヒザクラ（寒緋桜）、カワズザクラ（河津桜）、アンギョウザクラ（安行桜）、エドヒガン（江戸彼岸）、シダレザクラ（枝垂桜）、ソメイヨシノ（染井吉野）、オオシマザクラ（大島桜）、ヤマザクラ（山桜）、カンザン（関山）、ウコン（鬱金）。

（さいたま市立大宮体育館のソメイヨシノ）



10月～12月の開花—ジュウガツザクラ（十月桜）、フユザクラ（冬桜）。

サクラは大昔から人々の暮らしや文化に様々な形で深く関わってきました。田圃の神様であったり、詩歌、絵画、彫刻などの対象であったり、染織や樺細工の材料であったりします。春には多くの人々が花見を楽しみ、生け花や茶花に心の安らぎを感じ、歌舞伎の舞台に華やかな彩りを添えたりします。

次に、紙面の都合で3種だけサクラの特色を紹介しましょう。

**ヤマザクラ（山桜）** 平安時代から近世までは花見と言えばヤマザクラでした。奈良県の吉野山や京都の嵐山は今でもヤマザクラです。見沼たんぼ地域では雑木林の中に自生しています。

（見沼公園のウコン（鬱金）花は淡い 樹齢三



百年とか八百年と言う長寿のサクラはヤマザクラとエドヒガンです。印籠

や茶筒、家具などの樺細工の材料はヤマザクラの樹皮です。

**オオシマザクラ（大島桜）** 原産地は伊豆大島や伊豆半島・房総半島の南部です。花は純白です。

この葉は塩漬けにして桜餅に使います。他のサクラと違い葉に毛がないので舌触りが良く、香りも抜群に良いからでしょう。

**ソメイヨシノ（染井吉野）** エドヒガンとオオシマザクラが自然交配してできたと言われています。1850年頃、染井村（現在の豊島区駒込）の植木職人が吉野桜で売りはじめたのですが、奈良県吉野山のヤマザクラと混同されやすいので、染井吉野と改名されたのです。

葉の出る前に花が全枝に咲き乱れ、豪華で美しいことで、明治以後は花見の王座につきました。

欠点は寿命が百年と短く、病虫害に弱いことです。

# 見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

## 絵と解説 八木一郎

### 寿能城

1560年（永禄3年）ころ、岩槻城（太田城主）の支城として見沼に面して築城された。

初代城主潮田資忠は岩槻城主の4男で、1590年（天正18年）秀吉の小田原征伐のさい、小田原城防御に加わり戦死。寿能城も浅野長政軍により落城となり、家来やその妻子は見沼に身を投げたといわれる。このことからホタルになった姫の話が伝わる。現在は寿能公園として整備され、潮田資忠の墓碑が建立されており、周囲には縄文時代の寿能遺跡がある



### 東沼神社・川口市差間

川口自然公園近く、見沼代用水東縁に接する斜面林の高台に位置し、古く1573年（天正元年）以前から浅間神社の名で祀られていた。

明治のおわりころ、差間村・間宮村・北原村などの村社を合社して東沼神社となった。

境内には標高8m・裾野30mの大きな富士講があり、頂上には「浅間大神」が祀られ、古くから富士信仰の対象とされてきた。



### 加田屋新田冬景色

加田屋川に架かる山下橋から七里方面を望んだところ。冬の空は空気がよく澄み、遠くまで見渡せる。飛来する白鳥はどこから来るのであろうか。来る春の訪れを前に 静かに眠る加田屋新田。セピア一色のグリザイユ画法で描いてみたが、冬の雰囲気を出せただろうか。

## 見沼たんぼくらぶ会員作品展

### 彼岸花の咲く見沼たんぼ」

作者 松本 君枝

稲刈りの頃、見沼たんぼの見沼代用水東縁の堤に真っ赤な長い帯を敷いたように彼岸花が咲きます。

繊細な彼岸花を中心に、向こうに収穫前の稲田が広がった風景を描いてみました。桜の頃とこのお彼岸の時期、この堤は心休まる散歩道としてたくさんの人々の目を楽しませております。



# 見沼たんぼ探訪記

## 中山神社への初詣

正月3日、中山神社を詣でると、しめ縄が飾られており垂れ下がった真っ白な「シデ」が、新年を迎えた境内の雰囲気を一層神々しくしている。今日は新年を迎えて3日目ではあるが、由緒ある神社だけに初詣の客は結構な数だ。

拝殿に立つとどの方も、両手を合わせ何かをお願いしている。この神社の御神徳は縁結び、夫婦和合、子授け、金運招福、商売繁盛、病気平癒・・・等々沢山だ。歴史が古いだけに、多くの願をお引き受けして下さるのである。

御祭神は<sup>おおなむちのみこと</sup>大己貴命（大国様）、<sup>すさのおのみこと</sup>素盞鳴命、<sup>いなだひめのみこと</sup>稲田姫命の3座であり、筆頭とする祭神は大己貴命を挙げている。当社の創建は、人皇10代崇神天皇の御代2年（紀元前95年頃）と伝えられ、天正19年（1591）11月には、徳川家康によって15石の御朱印地を賜る格式のある神社である。

大宮区高鼻町の氷川神社、本社、そして緑区宮本町の氷川女體神社は、ほぼ直線上に乗っており、



その中間に本社が位置している。夏至、太陽は西北西の位置にある氷川神社

に沈み、冬至には東北東の氷川女體神社から昇るといふ。稲作で重要な暦を性格に把握するために意図的に配置されていると言われている。

本殿の奥に回ると2間社の旧社殿がある。この社殿は、簡素な板葺の「店棚造り」が2間社となり、階段や欄干等で装飾した「流れ造り」に発展して行く過渡期の建物とされ、桃山時代のものと考えられており、市内で最も古いとされている。

（召田 紀雄記）

## 「見沼スケッチ会」第7回水彩画展

見沼スケッチ会の第7回水彩画展が2月4日から9日まで、さいたま市立大宮図書館で開催された。本会は、八木一郎画伯の主宰する同好会で、今回は見沼たんぼを中心に周辺の風景を主なモチーフに70点余りの作品が展示された。

見沼たんぼは1260ヘクタールの面積があり、およそ日光の中禅寺湖に匹敵するほどの広大な面積を有しており、1728年、8代将軍・徳川吉宗の時代に作られたたんぼである。田畑があり、川があり、林があり・・・と自然が溢れており、四季折々、素晴らしい景色を提供してくれる。

作品の前に立つと、どの作品も目に優しい淡い色で描かれており、何かを話し掛けてくるので、絵の前に釘づけされてしまう。加田屋新田の絵の中には緑が溢れており、注意して見ると、川の流れの中には楽しそうに泳いでいる鴨の親子の姿があるのではないかと。静かにしていると親子の話し合う会話が聞こえてくるようだ。

見沼自然公園、芝川、氷川女体神社、別所沼・・・それこそ色々な所が描かれており、まるで、見沼たんぼやその周辺を歩いているような錯覚に陥ってしまう。雪の景色があり、紅葉の景色があり、建物やその周りの景色があり・・・と、見沼たんぼの季節の変化を静かに語り掛けてくれる。

来訪者の方々は、グループで、ご夫婦で・・・と会場内は賑わって



賑わっておりました。興味のある方は、係員に質問をしたりして、作品の描かれている場所や季節などの確認をしながらメモを取っている。このようにして多くの方々が、時間を忘れてしまった人のようになって、作品を目に焼き付け、作品の中からの語り掛けに静かに耳を傾けているのでした。

（召田 紀雄記）

# 見沼たんぼの仲間たちNo.29

見沼たんぼ保全運動プラス自立援助ホーム

村上 明夫

(見沼たんぼ保全市民連絡会代表、自立援助ホーム「クリの家」サポーターズクラブ事務局長)

見沼たんぼの保全運動に力を注いだのは1964年の頃である。当時、埼玉県は見沼たんぼの開発を規制して来た「見沼三原則」の全面的見直しを計画していた。

全国的には、当時の中曽根首相の「中曽根民活」の頃で、全国的にゴルフ場などのリゾート開発が盛んとなり、開発の波が吹き荒れていた。首都圏に残された貴重な緑地空間・見沼たんぼに規制緩和、乱開発の波が訪れたのである。

私は三市合併前の旧浦和市の無所属の市議会議員として保全運動に全力をあげた。あれから、ほぼ10年、議員は引退した。見沼たんぼは大筋として保全する方向性が固まった。

今、私や当時のスタッフは「見沼保全」とならび「自立援助ホーム」の運動に力を注いでいる。直接の理由は、私の議員時代の事務所の中心だった小林節子さんが「自立援助ホーム」を始めたからである。「自立援助ホーム」とは、主に児童養護施設を卒業して就職、自立をめざす子供たちが暮らす民間の施設である。

近年は、親の虐待等で親と一緒に暮らせず、児童相談所等から送られて来る子供が多い。

見沼たんぼの保全運動で私たちが見たものは、利益のための「自然や農業の破壊」である。

「自立援助ホーム」で見るものは、「人間の破壊」である。「自立援助ホーム」に来る子供の中で多くの問題をかかえる子供は親の虐待の中で育った子供である。

何故自分の子供を虐待するのか？理由は様々だし、勿論個人差もあるから一概には言えない。でも大ざっぱに言えば、親の多くが貧困で社会に認められず、やり切れない思いを抱いているからである。やり切れない思いはより力の弱い者へと向かう。夫のやり切れなさは妻へのDVとなる。

DVやパート労働のやり切れなさは子供たちへの虐待となる。

こうして力が弱く、自己表現の力のない子供たちがやり切れない大人たちの犠牲となっている。親も子供も「居場所」が無いのである。

よくこう言うと、「いつの時代にも貧しくやり切れない人は居た。」という言葉が返って来る。その通りだ。でも時代が昔とは違う。全体が貧しくても段々良くなる時代と逆の時代、家族や地域の助け合いが盛んな時代と家族や地域が崩壊していく時代……、そんな時代の違いが大きいのだ。特に、家族の機能の問題は大きい。

虐待は、子供たちが一生取り返すことの出来ない心の傷を残す。精神の不安定や人間不信等心の傷は計り知れないほど深い。人によっては「第4の発達障害」と呼ぶくらいだ。外から見えない心の傷は深刻だ。

普通でも就職するのが大変な時代だ。心の傷を持つ子供たちが働き生きて行くのは容易なことではない。虐待の中で育った子供たちの多くが思春期を迎えている。虐待防止だけでなく、被虐待児の自立に向けた支援の必要な時代だ。虐待の中で育った子供たちが納税者になれるか生活保護の対象者になるかでは天と地の違いがある。こうした子供たちのために支援金を出すことは未来への投資だ。

いつの時代にも、見沼保全がそうであったように、心ある市民の運動が先にある。その上で行政の取り組みが必要だ。市民の運動と同時に政治が大きな役割を果たすことも確かだ。

子供たちが心の傷を回復するために「育ち直し」の気の遠くなるような努力が必要だ。

「強欲資本主義」は利益のため自然や農業を破壊する。原発事故で故郷を離れて避難を続ける人々や虐待で心の傷を持ち続ける子供たちを見るたびに、どうして私たちは「こんな世界を作ってしまったのか！」と思う。

問合せ先 e-mail:minuma@amber.plala.or.jp

# 見沼たんぼを支える農家さん

## さいたま市特産「チコリ」栽培

有泉康夫さんをお訪ねして

チコリは白菜の芯に似た形で、さくさくっとした歯触りとほのかな苦味が特徴です。ベルギーなどの北ヨーロッパが原産でヨーロッパでは馴染みの深い野菜ですが、気候条件の全く違う日本では栽培が難しく、ほとんどを輸入に頼っています。このチコリを、30年ほど前からJR東浦和駅にほど近い一画で栽培しているのが有泉康夫さんです。



(ハウス内のチコリ)

元々このあたりでは「もやし生姜」と呼ぶ「はじかみ」や「木の芽（山椒の若芽）」の生産が盛んで、その技術を生かせるとチコリの栽培に取り組みました。

様々な試行錯誤や工夫の結果、7月に畑に種を撒き12月に成長した根株を掘り取り20センチ程度に調整してコンテナに詰めて冷蔵庫で保存。この根株を順次ハウス内の遮光したトンネルで伏せこみ、伸びてきた茎葉を収穫して1月から4月半ばまで出荷しています。味はベルギー在住経験者から「これぞ本場の味！」と太鼓判を押されました。

市内レストラン等に直接販売している他、東京市場での国産チコリはこの見沼のものだけだそうです。他の野菜と違って、チコリは常に輸入物との戦いになり、国内出荷が始まると輸入物も価格を下げて応戦し、出荷時期を過ぎるとまた高価格に戻して調整するそうです。

輸入物も夏場は端境期になるため、当初は年間を通しての出荷を目指し、ムロや冷蔵庫の利用などを試みて夏場の栽培には成功しましたが流通・販売段階での品質管理が難しく、さらに季節が逆になる南半球のニュージーランドからの輸入が始まったため、周年での出荷を断念したそうです。

さいたま市の農業委員を12年務めた有泉さん。この地域も特に武蔵野線ができてから急速に都市化がすすみ、そこに農家の高齢化も加わって農業者は大幅に減少しています。

今後TPPなどによる農産物の輸入増加に太刀打ちするには、これまでのような個人経営だけではなく法人組織での耕作など新しい形で農業環境と生活できるだけの賃金を保障して若い人が参入しやすくして後継者を育てることが急務で、それには増え続ける耕作放棄地の大きな原因となっている不在地主の問題などに対しての根本的な改革も必要だと話してくれました。

有泉さんはチコリの他に年間を通して木の芽を栽培しています。伺った時はちょうど木の芽の出荷の最中で、瑞々しい小さな若芽を80歳を過ぎてい



(有泉さんと山椒の木)

るといってお母さんのまささんが手際よく選別してきれいに箱に詰めておられました。ヘルシーイメージで世界に浸透し、更にユネスコ世界無形文化遺産の登録を受けて一層注目が集まる和食。その和食に欠かせない小さな木の芽。

今後の抱負についてお聞きしたら、笑いながら「うーん、チコリをやめて木の芽専門になりたいね」とおっしゃった有泉さん。

チコリ栽培のご苦勞を改めて感ずると共に、「木の芽には加工品も代用品もないからね」というお言葉に小さな木の芽に秘められた大きな可能性を見た思いがしました。

(取材：島田・高橋、記：高橋)

チコリについてのお問い合わせは

浦和軟化蔬菜出荷組合チコリ一部会：緑区東浦和5-4-6

Tel：048-873-1488（有泉）へ。

## 見沼たんぼくらのイベント案内

### 見沼ふれあい農園づくり

京芋・里芋・八つ頭・生姜栽培

■ 会員限定◀福祉施設にも寄贈します。▶

- ① 5月 1日 (木) 種芋植付
- ② 5月29日 (木) 除草
- ③ 6月11日 (水) 除草
- ④ 6月25日 (水) 除草
- ⑤ 7月15日 (火) 除草
- ⑥ 8月 5日 (火) 除草

毎回8時30分～10時30分 (受付8時)  
雨天順延 その後11月収穫までの日程は未定

農園：1号地 (緑区大字見沼610及び613)  
申込み：4月25日までにFAX・葉書・メール・電話などで見沼たんぼくらぶ事務局まで  
交通：JR東浦和駅からバス③浦和東高校行き  
7：41発「宮本2丁目」下車、徒歩10分

### 第58回自然観察ハイキング

『見沼の自然と史跡を訪ねて』

日時：5月3日 (土・祝) 13時～16時  
集合地：合併記念見沼公園  
コース：合併記念見沼公園⇒新右エ門新田⇒  
大宮南部浄化センター⇒天沼神社⇒集合地

申込み：当日、集合地で12時30分から受付  
交通：大宮駅東口からバス④自治医大行き終点  
下車、徒歩2分 (自治医大の南側)  
大宮発12時または12時30分乗車  
\*セントラルパーク市民協働会議主催『合併記念見沼公園コイのぼり祭り』に合流します。

### 第97回見沼塾『見沼たんぼの文化遺産』

日時：5月25日 (日) 14時  
会場：市民の森 見沼グリーンセンター2F  
講師：青木義脩 (県文化財保護審議会委員)  
\*見沼通船堀の復元を手掛けるなど見沼たんぼの文化財研究の第一人者。  
申込み：当日、会場で13時30分から受付  
交通：JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩10分  
見沼代用水西縁・川島橋東側

### 第98回&99回見沼塾

第1部 講演 第2部 民話影絵  
日時：6月15日 (日) 13時30分  
会場：市民の森 見沼グリーンセンター2F  
第1部『見沼たんぼ保全の歩み』  
講師 村上明夫 (見沼たんぼ保全市民連絡会)  
\*見沼たんぼ保全市民運動のリーダー  
第2部『見沼の竜』他  
高橋正幸他 (影絵いろり座)  
申込み：当日、会場で13時から受付  
交通：JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩10分  
見沼代用水西縁・川島橋東側

## 会員の主宰するイベント情報

### 自然観察ハイキング『見沼たんぼの春の七草&斜面林のキンラン・ギンラン』

日時：4月29日 (火・祝) 9時～12時  
集合地：東武野田線大宮公園駅前  
主催：NPO法人自然観察さいたまフレンド  
コース：大宮公園駅⇒見沼代用水西縁⇒見沼  
1丁目田圃⇒芝川⇒大和田緑地公園斜面林  
⇒大宮第二公園⇒大宮公園  
申込み：当日、集合地で8時30分から受付  
参加費：¥500 (ただし中学生以下は無料)

## 「見沼たんぼくらぶ」へのお誘い

お知り合いに紹介してください。  
個人 (同居の家族単位)・団体・企業とも1口千円。団体・企業には3口以上を望みます。

## みぬま通信第57号

発行日 平成26年月4月1日  
発行所 見沼たんぼくらぶ  
〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町  
1-2124-3 小野方  
TEL・FAX (048) 683-1764  
E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp  
URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>  
© 2013 Minuma Tuusin